

高安詰所だより

第2号
立教185年
2月20日



厳しい寒さの中にも、春の予感を感じる今日この頃です。

コロナ感染状況も、今尚決して安心できる状態にはありませんが、お入り込みの6月18日まで、もうあと僅か4カ月に迫っています。教祖に成人した姿をご覧いただけるよう、これから一層本腰を入れて歩みを進めて参りましょう。

そうした中、年頭の真柱様ご挨拶の中で、来る立教一八九年に「教祖百四十年祭」執行と、これに向けて来春より三年千日の年祭活動始動のお打ち出しがありました。いよいよ「待ったなし」の旬の到来です。詰所に於きましても、「教祖年祭」を視野に入れつつ、まずは6月18日お入り込み記念日当日の「一斉ひのきしん」にお帰り下さる大勢の信者さま方、そして記念期間中（6月18日〜7月25日）の「全部内教会からの団参」に、安心安全にお帰りいただき、おかつろぎいただけますよう、万全の受け入れ態勢をもつて皆様のお帰りをお待ち申し上げます。

またとないこの旬に、教祖にお喜びいただき、ご満足いただけますよう、「御恩報じ」を心に、にをいがけ・おたすけにお励み下さり、一人でも多くの方々と共に、魂のふるさと、おちばにお帰り下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

ジオラマ

今年限定の「ミニジオラマコーナー」を詰所玄関ホールに設置しました。教祖がお入り込み下さった当時の旧松村邸のミニチュア模型と、教祖逸話篇「私が見舞いに」、そして高安大教会史中の教祖お入り込み部分の抜粋、更に教祖がお通り下さったと思われる、おちばから教興寺までの道筋の絵図を展示しています。お入り込み当時の様子を、どなたにも分かり易く親しんで頂けるものと思いますので、おちばにお帰りの際には是非詰所にお立ち寄り下さり、御覧になって下さい。



コロナ対策

コロナ感染拡大に伴い、詰所に於きましても、お帰りいただく信者の皆様には、少しでも安心してお過ごしいただけるよう、時々の感染状況に応じこれまで様々な感染防止策を施して参りました。玄関先でのアルコール消毒は言うに及ばず、部内教会から御供えいただきました、高価な銀イオンを常時噴霧するなど、昨年よりいち早く「空気感染防止」につとめて参りました。またソファや机等の配置をきめ細く配慮し、特に食堂では手洗い、アルコール消毒の徹底と、密にならぬよう十分に間隔を開けての一方方向の座席配置、黙食などをお願いして参りました。皆さまにはご不自由をおかけしておりますが、これだけ大勢の所帯にも拘わらず、これまで一人の感染者も出さずこれたのは、偏にお帰りの皆さまお一人おひとりの防疫意識の高さ、そして大教会長様ご指導の下の感染防止対策、そして、詰所スタッフ一手工



つの祈りを親神様、教祖にお受け取りいただいたの見護らいであると思わせていただきます。これからも気を抜くことなく、感染防止にしっかりとつとめて参りますので、お帰りの際には何卒ご協力のほど、お願い申し上げます。

詰所行事予定（3月）

- 1日 コロナ感染拡大終息祈念お願いつとめ参拝（本部）
- 3日 詰所三区会例会（東愛詰所）
- 4日 常会
- 8日 にをいがけ実動
- 12日 勤務者修練Ⅰ（ひのきしん）
- 13日 おつとめ勉強会
- 17日 直轄祭参拝（大教会）
- 20日 勤務者修練Ⅱ（ひのきしん）
- 23日 大教会月次祭参拝
- 25日 月例朝礼
- 26日 本部月次祭参拝者受け入れ

にをいがけ実動（2月8日）

コロナ禍ではありますが、詰所では「にをいがけ実動」を毎月欠かさず実施し、勤務者全員がつとめさせていたっています。今月もマイクロバスで額田部町に移動し、大和川堤防での神名流し、平

浄水場横神名流し



高橋くんが「たかはし」にて



端駅前での路傍講演、そして、4人一組に分かれ割り当てられたブロックを一軒一軒丁寧に個別のにをいがけに歩かせていただきました。この日も寒風が吹き荒れ身体の芯まで凍えるような寒さでしたが、教祖の御苦勞を偲ばせていただきつつ、皆勇んでつとめさせていただきました。（参加者16名）



平端駅前での路傍講演



「たかはし」にてよろづよ八首奉唱

修養科生（第966期生）

去る1月29日と2月11日、3名の方が無事おさづけの理を拝戴され、全員が晴れてよふぼくとなりました。

残り僅かとなった修養科生活。悔いを残さぬよう、寒さを吹き飛ばし、それぞれがおつとめ、ひのきしん等々懸命に仕上げの修養に励んでおられます。



編集後記

今年は今明け早々から、「オミクロン」という猛烈な感染力をもつコロナ新株の猛威に晒された。当初は、政府も万全の水際作戦で封じ込めると意気込んでいたが、あつという間に突破され、瞬く間に感染が広がった。保健所や医療機関も未曾有の事態に翻弄され、パング寸前の状態にまで陥った。結局はどんなに防疫体制を整えても、万全はあり得ないという無力感すら感じる。やはり目に見えない脅威に対しては、目に見えない「何か」にしか護ってもらえないということなのだろう。

その意味でも、これだけ大勢の人々が入りし、生活している詰所からこれまで一人の感染者も出ていないのはまさに奇跡で、まるで詰所全体が防疫シールドに覆われ護られているかのようだ。

この道を信仰する私達は、有り難いことに目に見えない「何か」というのが親神様の十全の護り、教祖のご存命のお働きであることを知っている。そしてどうすればそのお働きを頂戴できるかも教えていただいている。しかし、それを知らない世の多くの人々は、今なお、得体の知れない脅威に恐れ戦いている。かかる人々に「にをいがけおたすけ」を通して、安心して暮らせる神人和楽の「陽気ぐらし世界」があることを知らしめる。それが「ウイズコロナ」ともいわれ始めた今の旬の、私達の使命かもしれない。



140

OYASAMA DIRIKOMI
TAKAYASU

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地